

泉谷選手と三浦選手が日本新記録 陸上日本選手権

男子100メートルは多田選手が初優勝

東京五輪代表選考会を兼ねた陸上の日本選手権が6月24日から27日まで大阪市で行われた。

5年前のリオデジャネイロ五輪で金メダルの記録に0秒01と迫る好記録を出した男子100メートル障害の泉谷駿介選手が13秒06の日本新記録で初優勝し、五輪代表に決まった。泉谷選手は、「しっかりと決勝に残って良い結果を残したい」と五輪での健闘を誓った。

男子は、3000メートル障害でも三浦龍司選手が8分15秒99の日本新で初優勝し、五輪への出場権を手にした。



▲100メートル障害決勝で優勝した泉谷選手、三浦選手(手前)

山県大選手がこの大会直前に9秒95の日本新を樹立して注目された100メートルは、多田修平選手が10秒15で初優勝し、初の五輪代表を決めた。3位の山県選手も3大会連続の代表となった。

走り幅跳びは橋岡優輝選手が8メートル36で2年ぶり4度目の優勝を果たし、初の五輪代表を決めた。



▶3000メートル障害で力走する三浦選手(手前)

池江選手、病氣から復帰して初の日本新記録 競泳女子200メートルリレー

東京五輪の競泳日本代表が3日と4日に相模原市で行われた記録会に出場し、五十嵐千尋選手、池江璃花子選手、酒井夏海選手、大本里佳選手の4人で挑んだ3日の女子200メートルリレーで1分39秒82の日本新記録を樹立した。池江選手にとっては大病から復帰して初めての日本新となった。

4日の同種目でも同じメンバーで1分39秒67をマークし、前日の記録を0秒15更新する連日の日本新を出した。この種目は五輪では実施されないが、本番の400メートルリレーに向けてメンバーの好調ぶりを示した。

池江選手は2019年2月に血液のがん「白血病」にかかり、12月に退院するまで治療に専念。その後、トレーニングを積んで競技生活に復帰し、今年4月の日本選手権で東京五輪のリレーメンバーに選ばれた。リレーの2番手で泳いだ池江選手は「久しぶりの日本新という響きはうれしい」と喜びを表した。21歳の誕生日だった4日のレース後に、会場の電光掲示板に誕生日を祝うメッセージが表示された。池江選手にとってはサプライズの出来事で、「大好きなプールで祝ってもらえるのはすごく幸せ」と笑顔を見せていた。



女子200メートルリレーで力泳する日本チーム第2泳者の池江選手



日本新記録を樹立し、笑顔で写真に納まる日本代表チーム(左から)五十嵐、池江、酒井、大本選手

ラグビー日本代表、初対戦のライオンズに敗れる

ラグビーの日本代表は6月26日、イギリス(英国)のエディンバラで全英・アイルランド代表ライオンズと初めて対戦し、10-28で敗れた。日本代表は2019年に日本で初めて開催されたワールドカップ(W杯)以来の国際試合を白星で飾れなかった。

ライオンズは、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランドの各代表チームから4年に一度しか結成されない強豪チームであるため、対戦できる相手も限られてい



ボールを持って走る日本の田村選手(AFP時事)



アイルランド選手にタックルを受ける日本の松島幸太郎選手(中)(EPA時事)



過去の名シーンを振り返ります スポーツアーカイブ

1964年の東京五輪

64年大会ではバレーボール、柔道で大活躍

21年大会は空手など新たな競技

1964年の東京オリンピックでは、20競技163種目が実施され、日本は無敵の強さから「東洋の魔女」と呼ばれた女子バレーボールをはじめ、体操、レスリング、柔道などで16個の金メダルを獲得した。

64年の東京大会で新たに実施されたバレーボールと柔道で日本は大活躍。バレーボールの女子は最終戦のソ連(現在のロシア)に快勝し、5戦全勝で頂点に立った。男子も銅メダル。柔道でも3個の金メダルを獲得し、日本躍進の原動力となった。

それから57年。今年の東京オリンピックでは33競技339種目が行われ、



柔道重量級表彰式。優勝の猪熊功選手(中央)

- ① 沖縄にルーツを持つ武術の空手は、1対1の対戦形式で競う「組手」と、選手1人ずつ演武を行いその完成度の高さを競う「形」の2種目。どちらも日本選手の活躍が期待されている。
- ② サーフは千葉県一宮町にある海が会場。いい波を見つけ、いかに大胆な波乗りができるかを競う。
- ③ スポーツクライミングは人工的に造った壁を登り、「スピード」、「ボルダリング」、「リード」といった3種目の合計点で順位が決まる。
- ④ 板の下の前後に車輪が付いたスケートボードは、遊び道具として知っている人も多いだろう。ジャンプしたり、回転したりして技の難度で得点を目指す。
- ⑤ 3X3 バスケは、1チームが3人。コートの広さも5人制の約半分、一つのリングを使う。どちらかのチームが21点を獲得したところで試合終了となる。



日本選手最年少、12歳のスケートボード女子パーク代表関心那選手